

## 巻頭言 育鵬社採択を阻止 名古屋市の来年度中学校歴史教科書

三浦 明夫（所員 教科書市民の会事務局員）

市町村教育委員会が8月末までに新学習指導要領に基づく中学校の新教科書を採択し終えましたが、名古屋市教委の社会科歴史教科書の採択が全国的に注目されていました。なぜなら、09年の就任以来、「扶桑社か自由社の歴史教科書を採択してほしかった」とか、「南京虐殺事件はなかったのではないか」とか、歴史改竄主義信奉を公言してはばからない河村市長が、昨年はあいちトリエンナーレの『表現の不自由展・その後』に対して常軌を逸した政治介入をして、いまだに「戦時性奴隷(慰安婦)制」を主観的に全面否定している状況だからです。さらに、4月には市長室長を務めてきた幹部職員を教育長に送り込んだのです。このような事情で、とりわけ歴史教科書への介入が危惧されました。

7月29日、市公館で3回目の教科書採択会議が開かれ、傍聴席は80席が用意され、68名が傍聴しました。会議の冒頭で、育鵬社歴史の採択を求める日本会議系グループの請願の後に、筆者も請願の陳述をしました。「日本国憲法こそが『検定』の根本基準であるはずだが、合格教科書の中には反日本国憲法の内容のものもある。侵略戦争を肯定・美化し、日本国憲法を攻撃し改憲論に誘導する教科書を採択しないこと」を求めました。

歴史教科書の審議になると、案の定、2人の委員(ともに民間企業経営者)が育鵬社を推しました。教育出版(以下、教出と略。現在使用中)を支持する委員は3人(全員、大学教員)。議論のさなか、「教科書問題」での河村市長の盟友、藤沢忠将市議(日本会議地方議連)が公職者席に座りました。小栗教育長代理から発言を求められた鈴木教育長は、育

鵬社支持派に理解を示しながらも、休憩後も意思を決めかねている旨を表明したため、8月7日の定例教育委員会議で継続審議することとされました。

教育出版3：育鵬社2。教育長が育鵬社を支持すれば、3：3となり、法の規定により教育長の決するところとされ、育鵬社が採択されます。このような危機的状況と判断し、教科書市民の会(榊達雄共同代表)は、愛知県歴史教育者協議会や憲法と教育を守る愛知の会、愛労連、平和のための戦争展実行委員会等々に、教育長と教育委員に対して「育鵬社を採択するな」の要請書を届けるよう協力依頼しました。

8月7日の採択会議は市教育館で開かれ、抽選漏れの方が6名出たが、80名が傍聴しました。開幕は異常でした。筆者を含む市民の会会員3名が緊急請願をしていましたが、「静謐確保の観点から、請願審査をしない」と不当な決定をしたのです。継続審議では、教育長は、3委員が教出支持であることを再確認し、自身は見解を述べることなく、育鵬社支持の2委員に発言を求めました。2人は、条件を付けながらも最終的には教出採択に同意したため、全会一致の劇的な結末となりました。

教育長に育鵬社支持を思い止まらせたものは、31日以降、続々と手許に届く「育鵬社採択するな」の緊急要請書だったはずですが。市民や市民団体の意見と行動で「アベノテキストブック\*」を退けることができました。

(\*育鵬社等の反日本国憲法教科書づくりを応援する「教科書議員連盟」を結成したのが安倍晋三らで、安倍は初代事務局長)